

広報あしや

新春スペシャルインタビュー

佐渡 裕

Yutaka Sado

小澤征爾やバーンスタインにしか見えない光、
当たっていない風、感じている空気。
自分も「その世界を感じてみたい」と真剣に
思った瞬間です。



©Takashi Iijima

問い合わせ 広報国際交流課 ☎38-2006

1月12日(土)芦屋市民センター(ルナ・ホール)で開催される佐渡裕「トーク&コンサート」。昨年11月に発売されたチケットは、わずか3時間で完売。世界的指揮者佐渡氏の絶大な人気をうかがわせる。身長186センチの大きな体から発せられる低音で張りのある声と、時折浮かべる屈託のない笑顔が印象的な佐渡氏に、お話をうかがいました。

ルナ・ホールで指揮をするのは、
35年ぶりくらいですね。

過去に芦屋市民センター(ルナ・ホール)で指揮を
されたことはありますか――

ありますよ。芦屋交響楽団でハイドンの「時計」
を演奏した記憶があります。23歳のころから

3年ほど芦屋交響楽団を、熱心に指導した時期がありましたから。当時は芦屋市商工会館2階の会議室で練習していましたね。あと、他の楽団の指揮などで3回くらいあります。今回ルナ・ホールで指揮をするのは、35年ぶりくらいになりますね。

私も芦屋に住んでいますので、以前からこのまちに何かしたい思いがありました。今回、スーパーキッズ・オーケストラでのコンサートのお話をいただいて、喜んでお受けしました。同じ日に山手小学校で、児童と山手町にお住いの親子の皆さんに音楽の授業もする予定です。

日本の子どもたちの弦楽器を演奏
するレベルは非常に高い。
世界でもトップレベルです。

テレビなどでもよく取り上げられる

スーパーキッズ・オーケストラとは――

スーパーキッズ・オーケストラは、私が芸術監督を務める兵庫県立芸術文化センターのソフト先行事業として2003年に設立しました。全国から厳しいオーディションを勝ち抜いたトップクラスの演奏技術を持つ子供たちを集めたオーケストラです。日本の子どもたちの弦楽器を演奏するレベルは非常に高い。世界でもトップレベルです。そんな子どもたちだけのオーケストラを作ること、私

自身も次の新しい世代と繋がることができる。兵庫県立芸術文化センターがシンフォニーやオペラを演奏するだけの劇場ではなく、それ以外の意味があることを表現したかったんです。スーパーキッズ・オーケストラの初めての演奏は明石市民会館でバッハの「G線上のアリア」でした。当時、明石市の商工会議所から私へ1通の手紙が届きました。「明石市の花火大会で子供たちが亡くなった事故が起きてから1年。子どもたちの遺族や周りの子どもたちに何かを届けたい、そのために佐渡さんの力を貸してほしい」と非常に心のこもった内容でした。その思いを受けスーパーキッズ・オーケストラが、少しでも皆さんに元気を届けることができればと思い演奏しました。

小澤征爾氏がいなければ指揮者になりたいとは思わなかったでしょうね。

オーケストラの指揮者になったきっかけは――

小澤征爾氏がいなければ指揮者になりたいとは思わなかったでしょうね。そして、レナード・バーンスタイン氏との出会い。26歳の時に、この2人が監督を務めるタングルウッド音楽祭の試験に受かり、私の人生は180度変わりました。小澤氏やバーンスタイン氏にしか見えない光、当たってい



ルナ・ホールで芦屋交響楽団の指揮をする佐渡氏
(芦屋交響楽団提供)